

>>> 図書探訪 いわきの人物 経済編 <<<

- ◆「東北地方電気事業史」東北電株式会社 東北電株式会社 昭和35年 (K/540/ト)
- ◆「東邦銀行二十年史」東邦銀行特別調査室 東邦銀行 昭和38年 (KS/三猿/388/ト)
- ◆「親切第一」星一 新報知社 大正11年 (地域貴重資料)
- ◆「選挙大学 選挙教科書」星一 選挙大学講習会(星製薬商業学校内) 大正13年 (KS/三猿/314/ホ)
- ◆「星とフォード」京谷大助 厚生閣 大正13年 (K/289/ホ)
- ◆「「お母さん」の創つた日本 日本略史」星一 星同窓会 昭和12年 (KS/三猿/210.1-2/ホ)
- ◆「支那の歴史」星一 星同窓会 昭和13年 (KS/三猿/222/ホ)
- ◆「哲学 日本哲学」星一 学而会書院 昭和24年 (KS/三猿/121/ホ)
- ◆「努力と信念の世界人 星一評伝」大山恵佐 共和書房 昭和24年 (KS/三猿/289/ホ)
- ◆「人民は弱し官吏は強し」星新一 文藝春秋 昭和42年 (KS/三猿/F/ホ)
- ◆「明治・父・アメリカ」星新一 筑摩書房 昭和50年 (KS/愚庵/914.6/ホ)
- ◆「国府田敬三郎伝」河村幽川 エドワード・K・国府田 昭和40年 (K/289/コ)
- ◆「国府田敬三郎とアメリカの米づくり」国府田英二 国府田英二 昭和63年 (K/289/コ)
- ◆「米生産費の研究」櫛田民蔵 櫛田克己 昭和10年 (K/611/ク)
- ◆櫛田民蔵全集第1巻「唯物史観」 櫛田民蔵 改造社 昭和10年 (K/308/コ)
 第2巻「価値及貨幣」 櫛田民蔵 改造社 昭和10年 (K/308/コ)
 第3巻「農業問題」 櫛田民蔵 改造社 昭和10年 (K/308/コ)
 第4巻「社会問題」 櫛田民蔵 改造社 昭和10年 (K/308/コ)
 第5巻「軍事税及戦時経済」 櫛田民蔵 改造社 昭和10年 (K/308/コ)
- ◆「櫛田民蔵 日記と書簡」櫛田民蔵 社会主義協会出版局 昭和59年 (K/289/ク)
- ◆「生誕百年を迎えて『何事か為せ。為さざるべからず』櫛田民蔵・評伝」大村哲也 いわき市社会問題研究会 昭和60年 (K/289/ク)

白井遠平 しらい・えんぺい 弘化3年(1846)ー昭和2年(1927)

白井遠平は、現在の栃木県真岡市に生まれました。父が白井家の養子となったことにより、安政3年(1856)、上小川村(現在のいわき市小川町)に移ります。

自由民権運動に関わり、「興風社」に加入し、県会議員の時、明治15年(1882)、喜多方・福島事件では逮捕されます。明治19年から菊多・磐前・磐城の三郡の郡長を務め、同23年、第1回の衆議院議員に当選しました。

明治12年、海運業の磐城丸回漕会社を設立、同24年には、鉄道による石炭輸送の益を新聞に提言し、後の常磐線開通に尽くしました。同28年に、入山採炭(株)の社長、同39年には好間炭礦(株)を設立、また、同29年には、磐城銀行をつくりました。

金成 通 かなり・とおる 明治12年(1879)ー昭和26年(1951)

金成 通は、現在の北茨城市の農家の二男に生まれました。中郷尋常小学校から私塾や上京して神田の商業学校の夜間部で苦学します。

明治31年(1898)、20歳の時、親類の錦村(現在のいわき市錦町)の金成家の養子になり、再び上京して経済学を学びました。同38年、通の働きかけで金成家と泉村の江尻家が共同で、「武村商業銀行」を買収し、同41年に磐東銀行を設立します。大正8年(1919)には植田水力電気(株)を創設し、四時川第一・第二発電所をつくり電力の供給をしました。

県会議員・錦村長を経て、貴族院議員の時、昭和9年(1934)、昭和人絹(株)錦工場(呉羽化学(株)の前身)の誘致に成功しました。

星 一 ほし・はじめ 明治6年(1873)ー昭和26年(1951)

星 一は、江栗村(現在のいわき市錦町)に生まれました。東京商業学校在学中に『西国立志編』に出会い、刺激を受け、卒業後はコロンビア大学に留学し苦学します。

帰国後、明治39年(1906)、星製薬所を創立、同44年に星製薬(株)とし、医薬品の国産化に成功、大広告と日本初のチェーン店方式で成長します。大正11年(1922)には、星薬科大学の基となる星製薬商業学校を創立しますが、同14年、政争に巻き込まれて、「アヘン密売の疑義」をデッチあげられ経営は傾いていきました。

衆議院議員を3回、参議院議員を1回務めています。平成22年4月、ドイツ学界への援助の功績により、ドイツ政府より記念碑が贈られました

>>> 参考文献 <<<

国府田敬三郎 こうだ・けいざぶろう 明治15年(1882)–昭和39年(1964)

国府田敬三郎は、西小川村(現在のいわき市小川町)の精米業の四男二女の三男に生まれました。『米国富豪伝』に感銘、アメリカに強い憧れを持ち、福島師範学校を卒業後、明治35年(1902)、差塩(さいそ)尋常小学校の校長を経て、同41年に渡米します。

カリフォルニア州各地で働き、マグロの缶詰事業で資金を得て、最初に始めた米作は失敗しましたが、昭和4年(1929)、飛行機で籾を蒔き、籾乾燥機を整備する大規模稲作経営に成功し「ライス・キング(米の王様)」と呼ばれました。第二次世界大戦の際、強制収容所に入れられ、財産のほとんどを失います。戦後、その再建と日系人の権利獲得(排日土地法の廃止・新移民帰化法の成立)に尽力しました。

櫛田民蔵 くしだ・たみそう 明治18年(1885)–昭和9年(1934)

櫛田民蔵は、上小川村(現在のいわき市小川町)の農家の長男に生まれました。磐城中学校から東京外国語学校を経て、故郷の医師永井元造の援助を受け、明治41年(1908)、京都帝国大学に進み、河上肇に経済学を学びます。さらに東京帝国大学大学院に進みました。

卒業後は大阪朝日新聞論説記者、同志社大学法学部部長、東京帝国大学講師、東京外国語学校講師を務めますが、大正9年(1920)、森戸事件で教壇を去ります。同年、大原社会問題研究所に入り、ドイツに行き膨大なマルクス経済関係の文献を集めました。マルクス経済の研究と評論で活躍しますが、50歳で急死します。夫人ふきは、戦後、婦人運動家として活躍しました。

明治初期の殖産興業政策

明治4年(1871)7月の廃藩置県により、いわきでは、平・湯長谷・泉の県ができ、平県を経て同年11月に磐前県が誕生します。県域は、現在の浜通りと中通りの一部を含む13郡でした。同県により、いわきの近代産業振興の指導・支援が行われました。明治7年に設立の開産会社は、産業資金と桑苗の貸付などの他に、物産試験場や洋式製糸工場をつくり、磐城3郡の養蚕農家の増大に貢献しました。同9年に設立の牧牛共立社は、西洋牛の繁殖のために小川に牧場をつくり、翌年の第1回内国勸業博覧会に粉ミルクを出品しています。磐前県が福島県に同9年に合併された後は、これらの官主導の産業は先細っていきました。

また、同12年には地域の豪商農が磐城丸回漕会社を設立、海運にて産物の流通を進める取り組みをしますが、長くは続きませんでした。明治30年に開通する鉄道まで、いわきの近代産業は本格的な展開を待たねばなりませんでした。

会期 平成23年(2011)2月5日(土)–4月17日(日)

会場 いわき総合図書館5階 企画展示コーナー

- ◆「いわき市史・3巻 近代1」いわき市史編さん委員会
いわき市 平成5年 (K/210.1-1/イ)
- ◆「いわき市史・4巻 近代2」いわき市史編さん委員会
いわき市 平成6年 (K/210.1-1/イ)
- ◆「いわき市史・10巻 近代資料1(上)」いわき市史編さん委員会
いわき市 昭和58年 (K/210.1-1/イ)
- ◆「いわき市史・10巻 近代資料1(下)」いわき市史編さん委員会
いわき市 昭和60年 (K/210.1-1/イ)
- ◆「いわき市史・別巻 常磐炭田史」いわき市史編さん委員会
いわき市 平成元年 (K/210.1-1/イ)
- ◆「決定版 いわきふるさと大百科」里見庫男 郷土出版社 平成19年 (K/210.1-1/イ)
- ◆「図説 いわきの歴史」里見庫男 郷土出版社 平成11年 (K/210.1-1/イ)
- ◆「福島県史 第18巻 産業経済1」福島県 福島県 昭和45年 (K/210.1-0/フ)
- ◆「いわきの人物誌(上・下)」いわき地域学会 いわき市 平成4~5年 (K/281/イ)
- ◆「近代いわき経済史考」斎藤伊知郎 いわき短大 昭和51年 (K/332/サ)
- ◆「白井遠平伝」 白井遠平伝記刊行会 昭和28年 (K/289/シ)
- ◆「白井遠平伝」高須梅溪 白井遠平翁銅像建設協議会 昭和38年 (K/289/シ)
- ◆「白井遠平 福島人物の歴史 第10巻」高萩精玄 歴史春秋社 昭和58年 (K/289/シ)
- ◆「小川郷土史『私たちのふるさと』」小川地域振興協議会広報専門委員会 小川地域振興協議会 平成10年 (K/289/シ)
- ◆「我が郷党の群像 福島県小川郷の偉人たち」田久孝翁 現代書林 平成8年 (K/281/タ)
- ◆「福島県東海岸之人物」太田勝衛 書肆廣文堂 大正4年 (SKS/281/オ)
- ◆「甘棠 金成通の追憶」金成増彦 金成増彦 昭和55年 (K/289/カ)
- ◆「浜通り風土記」蛭田耕一 いわき歴史愛好会 平成6年 (K/291/ヒ)
- ◆「鮫川流域の群像」中村広寿 平成17年 (K/210.7-1/ナ)